

松居総領事スピーチ:新年賀詞交換会

令和7年1月15日

於：総領事公邸

1. 冒頭

明けましておめでとうございます。

新年会の趣旨に照らし、日本語にてご挨拶申し上げます。

松の内も締めの本日、オークランド日本人会、オークランド日本経済懇談会（二水会）、オークランド日本語補習校、ワイタケレ日本語補習校及びハミルトン日本人会よりご出席を賜り、新年を迎えられますことを大変嬉しく思います。ご出席の皆さまにおかれましては、日本とニュージーランドとの関係強化、さらに当地における日本人コミュニティの発展にご尽力をいただいております、あらためまして心より御礼申し上げます。

また、今回、約20年前に当館の次席を務められ、駐ウガンダ特命全権大使など経て、現在、Japan Platform 事務局長として活躍しておられる亀田和明様にも出席していただいております。

着任して二年目に入り、タウランガやファンガレイ、ハミルトン、タウポなどに足を運び、私なりに見聞を深めて参りました。引き続き、管轄地域にお住いの1万人を超す在留邦人の皆様の安全と安心を最優先に取り組んでいきたいと思っております。

2. 昨年の振り返りと来年に向けた抱負

昨年を振り返れば、まずは、6月のラクソン首相の就任後初めての訪日が、大きなモメンタムとなりました。企業出身のラクソン首相らしく、30人規模のビジネス・ミッションを帯同し、ニュージーランド製品の売り込みや投資の誘致に大変熱心でした。

ラクソン首相と岸田前首相は、両国間の「戦略的協力パートナーシップ」をさらに強化していくことで一致しました。分断や対立が深刻化する現在の国際社会において、両国がインド太平洋の平和と繁栄のために協力することが非常に重要になっております。

11月には、ブラウン・オークランド市長が訪日されたほか、川崎市や福岡市、鹿児島県、福島県磐梯町など日本の地方自治体関係者が多くオークランドを訪問してくださいました。

同じく11月、倉敷において開催された日本ニュージーランド経済人会議には、二水会会員企業の方々も含め、両国経済界から180名が参加、「未来を拓く、次世代へのパートナーシップ」を主題として、活発な議論がなされました。昨年は当地の経済ビジネス環境が厳しさを増す中、経済人会議の50年の節目に、果敢に諸課題に挑み、伝統的な貿易投資関係を軸に、宇宙、地熱や水素といった新分野での協力が進展していることを大変嬉しく思います。

次世代への橋渡し、という点で、補習学校が果たす役割はとても重要です。ワイタケレ日本語補習校は本年15周年を迎えると承知しております。当館はオークランド日本語補習学校と同校のご活動と運営の基盤を引き続き皆様とともに支えてまいります。子どもたちが、日本語や日本文化を継承し、両国の友好関係に貢献していくことを願ってやみません。

オークランド日本人会は昨年、設立35周年を迎えたことをお慶び申し上げます。また、ハミルトン市の日本人も増えていると承知しております(ハミルトン日本人会からの出席を確認して発動)。昨年10月、さいたま市・ハミルトン市姉妹都市関係締結40周年を記念し、清水さいたま市長一行が来訪されました。ハミルトン日本人会が、日本語学習、折り紙や日本食紹介の文化交流等の活動が行われていることが、こういった姉妹都市交流を支えていると思います。

外務省は、本年初めて、海外における邦人の孤独や孤立に関する実態把握のための調査を実施しました。孤独や孤立への対策は、日本においても、「つながり」を感じることができ政策が推進されています。海外における邦人コミュニティの強化はこのような観点からも大変重要であり、総領事館としても支援していきたいと考えています。昨年、新しい試みとして、日本人コミュニティの親睦を深めるいい JSA や、シニアライフをサポートするエイジ・コンサーンにより開催されている「集まろう会」などで、当館の邸料理人を務める北園陸シェフによる料理講座を開催しました。健康で生き生きとしたシニアライフという視点も、大切にしていきたいと思っています。

駆け足で、昨年の様々な成果と抱負に言及しましたが、すべてを語り尽くすことができません。これらの活動に携わっていただいている方に、あらためて感謝申し上げます。

3. 在外公館長表彰

さて、本日は、在外公館長表彰をあわせて実施します。この表彰は、わが国とニュージーランドとの相互理解及び友好親善に寄与した功績を称えるもので、ワイヘキグリーン・ギャラリー代表である伊東和子様授与致します。

伊東和子様におかれましては、成憲様とともに、赤坂グリーンギャラリー及び南青山グリーンギャラリーを運営で大成功を収めた後、2001年、ワイヘキグリーン・ギャラリーを設立されました。ワイヘキグリーン・ギャラリーにおいては、陶芸を中心に、両国のアーティストに展示機会を提供してこられました。

また、2006年、長年に渡る展覧会活動を通じて収集した現代日本陶芸を中心とする40作家の70作品をオークランド戦争記念博物館に寄贈し、ニュージーランドにおける日本の陶芸文化の浸透に大きく貢献されました。加えて、私の執務室と当館の待合室に陶芸作品を貸与してくださり、訪れる方にも喜んで観賞していただいております。

4. 結語

本日は、私と妻の出身である京都の歳神様に捧げる思いで、白いお味噌で根菜と煮込み円満と長寿を願う丸餅のお雑煮など心ばかりのお料理を用意しました。ご堪能いただければと思います。

本年が皆さまにとって、そして日本とニュージーランドにとって、チャレンジを乗り越えチャンスを活かし素晴らしい年になることを祈念しつつ、結びの挨拶とさせていただきます。

乾杯。

(了)